

養育里親

～もうひとつの家族～

13

坂口 伊都

節目、節目

新しい家族を迎えて暮らしていく意味を少しずつ感じ始めているような気がしています。期待、戸惑い、不安、イライラ、そしてつながっていく瞬間を感じる時。一言では言い表せない日常を送っているのでしょう。

新年度を迎え、学校のクラスも変わり、担任の先生も校長先生も変わり、児童相談所の担当ワーカーも変わりました。仕方がないことですが、この子が我が家に暮らしの場を変える際、いろいろな方が関り、心配し、尽力していただいたので、そのメンバーでなくなることに不安を覚えます。まだ委託になって、1年経過していないのだから、この子のことを理解している支援者達と、もう暫く一緒に支えていきたくった

です。新しい担当者と信頼関係を作っていくには時間がかかりますが、養育里親ケースの我が家が児童相談所内でどのように引き継ぎをされ、担当ワーカーとこれからどれぐらいの頻度で顔を合わせていけるかわかりません。また、新たな関係が築ければと思います。

昨年の夏、里親委託のための準備がいろいろ行われました。この子は、療育手帳を所持しているので委託後、特別支援学級か特別支援学校へ通うか悩みました。地域によってそれぞれ特色が違うので、前に通っていたからという理由で選ばない方がいいと児童養護施設から通っていた担当教員の方が助言を下さり、児童相談所のワーカー、児童養護施設の担当職員、養育里親の三者で支援学級と支援学校を見学させていただきました。その場に教育委員会の先生も同行して下さり、特別支援学級に体験入学をする

ことになりました。

この子は、何か自分の周りで変化が起きているのを感じながら、担当職員に連れられて来て、体験入学に参加しました。体験入学の内容は、給食と昼休み、そして1時間授業の参加でした。自己紹介の時、坂口が出てこなかったりしましたが、先生が間に入り、辻褄を合わせてくれました。

支援学級の2年上の子が、うちの子に興味津々で声をかけてくれ、「〇〇くん、こっちだよ、一緒に行こう」と手を引いて、グラウンドに走っていきました。その姿を見ながら、大人達は「大丈夫そうだね」と胸をなでおろしました。体験入学の最後に校長室に招かれ、校長先生と懇談しました。校長先生が、「待っているからね」とこの子に声をかけてくれ、それがとても嬉しかったのを覚えています。里親として、この子をわかろうとしてくれる人がいることは、何よりも心強いことでした。

児童養護施設の担当の先生は、以前に集団で登校した時、他の子と喧嘩になったことがあったそうで、ちゃんと集団登校できるかなと心配だと話されていました。

登校初日、「もう行った方がいいかな」と落ち着きません。見知らぬ子ども達に囲まれ、帽子を深くかぶって神妙な様子でした。学校に着くと体験入学の時に誘ってくれた子が、うちの子の名前を憶えていてくれて、一緒に行こうと声をかけてくれました。私は1週間ほど、登校班の後ろに付き添って様子を見ていましたが、「もう大丈夫だよ」と話し、一人で登校班に参加していきました。最初の頃は、ドギマギしながら家を出て、行き渋ることもなく登校してくれました。

新しい家、家族、学校、友達。この子にとっては、戸惑うことばかりだったと思います。ただ、毎日をこなすことで精一杯だったのでしょう。

放課後は、学童保育ではなく、障害児サービスの放課後等デイサービスを週3回利用しています。ここの地域の上限が週3回と説明を受けました。初年度は、年度途中からの利用だったので、空いている曜日がなく、2か所の事業所を1日ずつ通っていました。どちらの事業所も、心よく受け入れをしてくれていましたが、片方の事業者はお迎えに行かなければならず、お迎えの時間帯に行くことが難しかったため、今年度は送迎がある事業所の方をお願いしました。今は週3回通えているのですが、希望曜日とは若干違い、なかなか思うように利用するのは難しいと感じています。

年度末に事業者の方とこの子を中心に向き合って、この子のいい所と苦手な所を話し合いました。私が「家でも、〇〇しよと言ってすぐに動けないですが、しばらく待っているとごそごそやり始めます」と伝えると、「事業所でも、〇〇しないと言う時があるので、その時は、いいよ、ずっと何もしないで過ごしてねと言うと、しばらくしてから、やっぱやるわと言って動いていますよ」と教えていただきました。この子が社会に出た時、少しでも周りにいる人とながら方法身を身につけていって欲しいと思っていると話す時、後日、個別支援計画の中に、「今何をやる時間なのかを丁寧に言葉や視覚で伝えていく」と記載されていました。家庭でも事業所でもこの子の社会性を伸ばそうと同じ方向を向けるのは、本当にありがたいことです。

新しい春がやってきて、人の別れと出会いを経験しています。この子を中心に支援者達が、また一緒に知っていこうとできればいいですが、それがどのような形になっていくのかはわかりません。里親もどのように関係機関と連携を取っていくと潤滑がよくなるのか方法を見つけていこうと思います。

家族関係

委託から 8 か月が経ち、冷静に子どもとその周辺を見られるようになってきたように思います。この子にとって、私達家族とのそれぞれの関係性を考えています。

前回、里母とこの子が対立をした事柄を書きましたが、喧嘩をしても一緒の家で毎日暮らしていく中で、気まずい時間が続いたり、話し合いをして仲直りをしたり、一緒に出かけたり、冗談を言い合いながら笑いあったり、家族の関係はいろいろな形に変化しながら、続くものと肌で感じ始めているのかも知れません。この子は、何か気まずいことがあると話題を変えて何事もなかったかのように振る舞おうとするのですが、それが通用しないということは身に染みてきているようです。

この子と家族の現段階での関係ですが、まず高校 2 年生の里兄は、思春期まっしぐらで自分のことで忙しく、この子だけでなく家族と距離を取ろうとしています。この子と出会った最初の頃は、一緒に出かけたりしていましたが、今は友人関係で染まっているようなので、この子を含めて家族との関りが希薄になっています。この子にとって里兄は、家にいたら何となく怖い存在のようです。里兄が、里親会の夏のバーベキューに参加した時、子ども達の面倒を引き受け、虫取りに励んでいたのも、里親会の皆さんから絶賛されていました。「何て、いい子なのだ」と言ってもらったことが夢のようです。今年のバーベキューは、一緒に来てくれないと思います。親としての心配が絶えない時期です。

次に中学 3 年の里姉。受験生と思春期で、日によって感情の起伏があります。やさしい時は、宿題を見てもらったり、一緒にバトミントンしたり、鉢植えをしたりしています。ただ、機嫌が悪くなると怒りっぽくなり、この子の返答の

仕方にイライラを募らせるようで、行動を直すように言葉で攻撃します。その中に、「何でできないの」「もう、ストレスたまる」という言葉も含まれ、その時期にあたると、この子も「お姉ちゃん嫌い」と口にします。やれやれと思いつつ様子を見守っていくと、姉のやさしい時期が戻ってきて、何事もなかったかのように過ごしています。この二人の関係、大丈夫かなあとヤキモキしていましたが、子どもの強さを見せつけられました。里姉も家族より、友人を優先させながら、絶妙なタイミングでこの子の相手をしてくれています。

里父は、この子には、なくてはならない存在です。家にいる時は、金魚のふん状態。パパと一緒にいたくてたまらないようです。里父がいない時は、一人で入浴していますが、パパとお風呂に入りたい、甘えたい、かまって欲しいという気持ちが伝わってきます。里父からも叱られることが増えてきていますが、この子にとって大事な人なのだと伝わってきます。

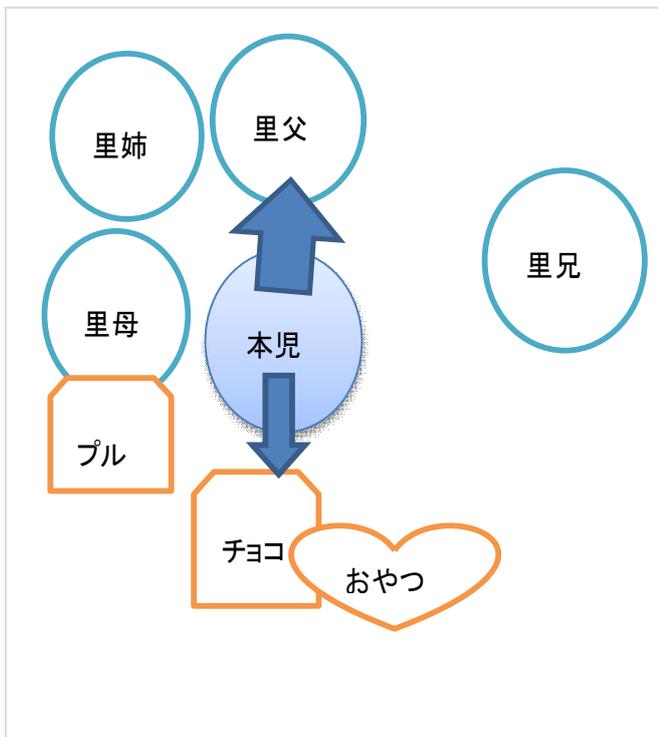
我が家には犬が 2 匹いるのですが、チョコの方はあまり吠えませんし、されるがままのタイプです。この子は犬を抱きたくてたまらないので、捕まえに行つて離さないようにつかみます。その様子が乱暴で、犬の方のストレスは大丈夫かなと心配です。チョコは、食いしん坊なのでおやつをくれる人が大好きです。この子は、おやつでチョコの気を引こうとしています。

もう一匹の犬のプル。こちらは、甘えん坊でチョコを誰かが撫でてしていると、焼きもちをやいて吠えます。散歩の時も他の犬を見つけるとよく吠え、気に入らない時や嫌な時は唸るので、この子の手に負えていません。だからでしょうか、「チョコちゃんはかわいいけど、プルは嫌なやつ」と言ったりして、わざとチョコとプルを差別するような行動を見せます。ストレス度は構われることが少ない分、マシかも知れませんが、この子に対する警戒心はなかなかのもので

す。

最後は、里母の私。里母の存在は、この子には、わかりにくいかも知れません。怒ると怖いけど、一緒にいる時間は一番長い。寝る時、一人にされるのが嫌で、何も言わず同じ部屋に寝るまで付き合っていますが、それにこの子が気がついていのかどうかわかりません。自分のことは、正直よくわかりませんね。

この子から見ると、里父とチョコは安定して好きと思える存在。里母、里姉、プルは関係性がコロコロ変わる存在。兄は希薄な存在なのだろうと思います。



家族の関係を図にしてみました。チョコは誰よりも食べ物に反応します。プルは、里母に甘えにきます。里姉は、父母の間に自分の位置を確保しながら、どちらにも甘えたり拗ねたりしています。この子の周りを取り囲むように家族がいますが、この子が構ってもらいに行きやすいのは、里父とチョコです。この一人と一匹の共通点は何だろうと考えると「忍耐強さ」が浮

かびます。里母と里姉、プルの共通点は、この子が反抗的な態度を見せると、感情が顔に出やすいところでしょうか。この子にしてみれば、プルが吠えたり、唸ることと、里母や里姉の怒りの顔つきになることは、わかりやすく自分を拒否されていると感じるのでしょう。里母として反省すべき点だと感じますが、頭で理解しているつもりでも身体が反応してしまう私の弱点です。特に犬を乱暴に扱われると、犬を守ってやりたい気持ちがムクムクと沸き上がり、犬も私に助けを求めてくるのがわかるので余計に感情を揺さぶられます。家族からこの子に犬をすぐに抱き上げないと伝えていますが、それでも温もりのある生き物ですから抱き上げたくなるのだと思います。

私は、犬を指さしながら「ほら、怖がっているよ。尻尾見てごらん、丸まっているよ」「見て見て、足が震えているよ」「眠いよって言っているよ」と、できるだけ犬の気持ちを言葉にしています。「抱いてもいいけど、捕まえていたら駄目だねえ。手を放してもチョコがそこにいるなら、一緒にいたいと思っているよ」「やさしくしたから、嬉しいって言っているよ」「尻尾振って、嬉しいって」「遊ぼうって、言っているよ」と伝え続けていると、「今、何て言っている?」「見て、僕に甘えているよ」「リラックスしている?」と自分から言い出すようになりました。

一緒に暮らし始めてから、無意識にお互いに自分の歯車を合わせる作業をしてきたように思います。何回もお互いにすり合わせをし、失敗を繰り返し、徐々に馴染んでいくのでしょう。

娘がこの子の態度にイライラし、この子も里姉を嫌がっていた時期、里姉の方は、この子だけでなく、他にも上手いかなと感じることがいろいろあったのだと思います。そのイライラを自分の中に抱えながら、里父の言うことは聞くのに、自分にはふてぶてしい態度を取ることに腹を立て、目の前で自分の父親に甘えて絡

んでいく姿にも刺激を受け、娘が父にくっついていくが増えました。姉と弟の父親の取り合いです。娘も意識してやっているわけではないでしょうが、面白い現象です。

この子が里父について回っているのだから、夫にしんどくはないか尋ねました。夫も、最初の頃は、全く時も構わずにくっついてくるこの子にうっとおしさを感じるが多かったようですが、最近は甘える時と自分でいられる時のメリハリが出来てきているように感じていて、今はそれほどしんどいと思わないそうです。この子にも夫にも成長を感じました。日常生活は、過ごしていかないとならない現実です。私達家族を周りで見ている方に大変だねと声をかけていただくことがあります、本人たちは、暮らしていくしか道はないのです。お互いの歯車が噛合わないより、噛合うような努力をする方がいいですよ。

挨拶から

この子と家族とのリズムが作られていく中で、この子のいい所もよくない所もいっぱい出しています。この子は、家にお客さんが来ると落ち着かなくなり、いつもより行動が大袈裟になります。特に初対面の人来的时候どう振る舞ったらいいかわからなくなるようです。この春で児童相談所の担当ワーカーが変わり、挨拶に訪問してくれた時、この子の態度は、ソワソワからどンドン悪態になっていき、全く言うことを聞けなくなりました。

家庭訪問が終わってから、「初めての人に来て、緊張するのはわかるけど、やっていいことと悪いことがあるよね」という話をして、まずは挨拶をしっかりしようとの子と話し合いました。

この子は、学校に登校する時「いってらっしゃい」とよく言っていました。こんにちを「こ

んちくわ」、おはようを「おはようさんま」、ただいまを「お帰り」という言い方だったので、人との関係を作っていくのに挨拶は大事だと話しました。

約束してから初めての日、無言で帰宅しました。私が「お帰り」と言うと、「……」。再度「お帰り」と言うと、今度は口の中で「○×△\$」、もう一度「お帰り」と言うと、意を決したように「ただいまあ」と出たので、「いい挨拶だね」と伝えました。まだまだ挨拶はすんなりとは出てきませんが、こういうことを繰り返しています。娘も、壊れたレコードのように「お帰り」「お帰り」と言ってくれています。

後、何か言われたら「はい」と返事ができるというのですが、これはとても難しいようです。「あっそう」と「はいはい」になってしまいます。

最近、ある出来事がありました。それは、特別支援学級の担任の先生が、高熱を出して何日間か学校を休み、その間の宿題がなかったのですが、「先生が休んでも、音読だけはしよう」と里父とこの子と約束していました。なので、次の日に「音読だけやっしまい」と私が言うと、この子が「何言ってんの。宿題ないし」と言い返します。「父ちゃんと先生がお休みの間でも音読だけするって約束してたでしょう」「あれは、パソコンのゲームやるからだけだもん」と言うので、夫に電話をしてこの子に話をしてもらいました。既に私とこの子のやり取りは、喧嘩口調になっていたのだから、この子は音読を里姉に聞いてもらい、音読をしたことを私に伝えてきません。今回のことは、この子の知的な部分からくる誤解があったのだらうと思いますが、私の腹立たしさは続いています。何が腹立たしいかというと、里父の言うことは聞いて、私の言うことは聞こうとしないという部分に私が反応していました。本当に大人気ない私です。

この日は、夫が夜勤で不在だったので、いつ

もなら寝室でこの子と私と二人で寝るのですが、「お母ちゃんの言うことを聞きたくないなら、そんな人と一緒に寝たくないでしょう。どうぞ、自分の部屋のベッドで寝て下さい」と言って、布団を運びました。この子も、意地っ張りですから嫌とは言い出しません。「ふーん」と言っています。大人気ない私は「おやすみ」と言って部屋を出ていきました。その日は、久しぶりに自分のベッドで眠りました。

翌日、お風呂から出てきて、「ねえ、今日もあっちの部屋で寝るの？」とこの子が聞いてきたので、「言うこと聞きたくない人と一緒に寝なくてもいいでしょう」と返すと「えー」と言っています。

里母 「ねえ、同じこと言っているのに父ちゃんの時は言うこと聞いて、母ちゃんの時

は言うこと聞かなかったよねえ。その時、母ちゃんはどう感じると思う？」

この子 「うーん、いや」

里母 「そうだよ。いやだったよ」

この子 「じゃあ、明日から言うこと聞く」

里母 「じゃあ、今日はあちらで寝て下さい」

この子 「あー、今日から言うこと聞く」

里母 「朝、言うこと聞かなかったしい」

この子 「うーん、今から言うこと聞く」

里母 「今度、言うこと聞かなかったら、もう一緒に寝ないしね。お布団、持っておいで」

以前と違うのは、この子が交渉する間、私の上に乗ってきて甘えたそぶりを見せることでした。大人気ない私なので、そんな風にされると気が緩み、甘くなります。その後の「早く寝なさいよ」には、嬉しくてふざけていて言うことを聞きません。「もう、言うこと聞いてないし」と言いながら、穏やかな時間が流れます。最後は、「もう寝る時間」とピシヤと里母に言われましたが、やり取り上手になってきているように感じます。

この子は里父には、叱られても面と向かって反抗しません。この人を怒らせたなら、大変なことになると思っているのでしょうか。里母に対しては、まず反抗してみるという感じなので、いい風に考えれば、私にはそんな面も出せるのだろうと解釈することにしました。

生活の中には、様々な衝突が必ずあります。もっと上手に回避ができるのかも知れませんが、衝突しても修復できる関係を積み重ねていければと思っています。里父と里母は、似ているようでタイプが違うのでしょうか。人だから、強みもあれば弱みもあります。どちらも大切にできる関係になっていきたいものです。